



NO.450

R7年2月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



『伝えたい10のこと』

理事長 松田 健

① 感覚過敏

あるスタッフの文章です。

4班「楽しい仕事」

私の仕事人生の中で、ここ三気の里の仕事は楽しく、私にとって、一番遣り甲斐のある仕事だと思っています。

自分が苦手なことをやる、又はやらされる時、人は自信を失ったり、やらされる事に激しい怒りを感じます。これは利用者さんにも当てはまる事だと思っております、苦手な活動等に対して、口で直接言われる方もいれば、行動に表れる方それぞれです。ただし、やらなければならぬ事自体を拒否しているのではない、私達支援員やそれを得意とする周囲の方々に助けてもらい、多くの利用者さんが、何とかしようとして行動されています。

私はもやもやした感覚や嫌な気持ち、良い方向にエネルギーと変え、毎日の仕事を楽しくやらせていただいています。利用者の方々にも、もやもやした感覚をエネルギーに変え、毎日楽しく過ごしてもらえようように支援を行いたいと思います。コロナ禍でも、感情に振り回されない、楽しい生き方をしたいと思っています。

この文章を読んで、利用者Tさんのことを思いました。触られることや大きな音が苦手です。支援者は配慮してくれています。克服しようとして耳元へいきなり大声で話しかけ慣れてもらうような療育を行う人はいません。人権侵害であるからです。話しかける時は前方からであるとか上手な支援者は百ステップぐらいに段階を踏んで焦らず、ゆっ

くりと克服しようとしています。場合によって克服しなくてもいいこともあります。そう考えてくれます。Tさんの場合、50ステップ目で握手ができるようになるぐらいの目標であり、できたことをみんなで褒めていくという環境があつて初めてその先に進めると思います。三気の里では下膳時にスタッフの見守りがあると自分でできる方は、下膳力ウンターまで一人で行きます。ご飯茶碗、皿などが置いてあり最初は出来なかった方も上手に片づけてくれます。下膳のとき、Tさんのあとに数名促されるスタッフの方は、Tさんのことをわかってきているのだらうかと思ってしまう。先にTさんを促してしばらくして次の人を促すか、Tさんを最後に促すかにしてほしいと思いま

す。次の人が押さないようにフオーするスタッフが入れられる場合もあります。数名であれば大丈夫ですが多くなるとこちゃこちゃとなり配慮が不足します。接触が苦手な当事者の方が語られた言葉を忘れません。目を見るように言われるが、目の中に百本の針が刺さる感覚であると。触られることは、傷口に塩を塗られる感覚だと。言うまでもなく話すことができる当事者の方は利用者の皆様の代弁者です。音、光、においなどについても配慮をしてくれる方がいます。音に対して特に気をつけており、80デシベル（静かな乗用車や普通の会話のレベル）以下の声量で話し、2回呼びかけても通じない場合は傍に行つて話すことがルールとなっています。61デシベル以上の声かけや威圧的な声かけは禁止しています。（緊急事態を除く）環境の配慮、刺激の遮断など感覚が過敏な方への一層の配慮を大切にいきます。







# 2月



## 『振り返り』

今年度、振り返りのリーダーとして仕事してきましたが・・・結果は・・・

今年度、班の目標として、「和顔愛語」（苛々したとき、嫌なことがあったとき、辛いときこそ、まず自分から笑顔と思いやりの言葉で周りの人に接すること）を立てました。

日々の作業に追われ、利用者さんもスタッフも笑顔が乏しくなっていないかと、班での反省を踏まえて立てた目標です。利用者さんは日々の作業に追われながらも確実に作業能力（腕）が上がってきました。作業能力が上がってきたことで、スタッフからの感謝の言葉が増え、皆さんの穏やかな表情と笑顔も増えました。スタッフも利用者さんの作業能力の向上に伴い、余裕が出来たことで自然と感謝の言葉や笑顔が多くなりました。「今日の作業は終わりです。ありがとうございます。お疲れ様でした。」に対して「お疲れ様でした。」この言葉のやり取りが毎日聞ける日常に自然と笑顔が出ます。作業目標であった「和顔愛語」が、少しずつですが実践されていると感じた1年でした。次に続く、「先意承問」皆さんも意味をお調べください。

副主任 八木良江

## “see（見る）”から“look（観る）”へ

突然ですが、中学校で習う「みる」を意味する英単語“see”“watch”“look”の違いを皆さんは覚えていますか。“see”は「自然に目に入る」、「watch」は「動くものを注意して見る」、「look」は「意識して観る」だそうです。“see”から“watch”、“look”になるにつれ、「みる」人の思考や狙いなどがそこに込められていく印象です。利用者さんの支援に当たる上で求められる「みる」は“look”です。思いや考えを言葉で表現することを苦手とする利用者さんの行動を理解するには“see”や“watch”では不十分です。また、その逆で利用者さんがスタッフを「みる」時も、“see”ではなく“look”してもらえる存在であることが大事だと思います。私が担当して4年目になるAさんは、勤務で入るなりじっと目線を私に送り近寄って来られます。一方で担当1年目のBさんは、チラッと私を見るなり目線を外されてしまいます。まさに“look”と“see”です。これからも、Aさんの“look”の背景にある思いや願いを的確に受け止め対応し、Bさんの私に対する“see”を“look”へと変化させていけるよう精進していきたいです。

副主任 杉本安代

## 『感謝の言葉』

今年度の班のテーマは「つなぐ」（連携）、「おもいやる」（気持ちを理解する）、「よりそう」（相手の立場になり行動する）です。その全てに共通することは言葉が大事だと言うことです。言葉は人と人の気持ちを伝えたり、意思を伝えるものではありませんが、伝え方によっては相手を思わぬ不安や不愉快な気分させるものでもあります。感謝の気持ちを伝える言葉で「ありがとう」という言葉があります。この言葉は魔法の言葉で伝えた方も、伝えられた方も良い気分になります。「ありがとう」の反対の言葉は「当たり前」だそうです。「当たり前」と物事を捉えていたら、なかなか感謝の気持ちにはなれないと思います。いつも「ありがとう」と言って下さる利用者の方がおられます。疲れた時に元気づけられます。1日を終え、ふと思い返すと、どれだけ「ありがとう」と言えたのだろうかと考えます。十分には言えていません。些細なことにも感謝を持ちたいと思います。たくさんの「ありがとう」を伝えられる支援者でありたいと思います。

副主任 久米善久



### 『一步外に』

三気の里という環境から一步外に出て、別のコミュニティを知る。そこで気づくこと、知らなかったことを学ぶことは多いと思います。

4班では体力維持、転倒予防のために毎日午後の散歩をしています。加えて、月に1回、外部の講師先生に来て頂く元気隊、地域のおおつかの郷さんの健康サロン、ゴールドクラブに参加して運動をしています。そこでの利用者さんの様子は普段となにか違って、なぜか笑顔が多いのです。なぜ笑顔になるのでしょうか。私は「楽しさ」だと思います。なぜ楽しくなるのでしょうか。きつく単調になりがちな運動の中にも、笑いや楽しんでもらうための工夫や仕かけがあの手この手と考えてあるからだと思います。運動もやり方によって、楽しく取り組める。楽しみながらというのがポイントだと思います。「一步外に」目を向けることで、視野が広がって新しい見え方になることがあると思います。

副主任 相馬 敦

### 『健康第一』

年が明けて仕事始めの日に、5班の皆さんと新年の挨拶を行うと共に、菊池神社まで初詣に出かけました。道中、利用者さん、スタッフ共に各々でお正月の思い出話をして盛り上がりながら、菊池神社に到着しました。お参りを一人ずつ済ませ、おみくじを引きました。結果は…大吉の方も多く、残念ながら大吉じゃなかった方も内容をスタッフと一緒に確認しながら、皆今年の運勢について一喜一憂し、楽しみながら引くことができました。三気の里に帰り、昼食はお弁当を食べました。年初めのお弁当は豪華にした為、皆さんとても喜ばれ、楽しい初詣になりました。昨年の年末年始は、里内でのインフルエンザ流行により、生活介護が休業していましたが、今年は通常通り皆さんとお会いすることができ、利用して頂けていることに心から感謝しています。私の今年の目標は、健康面に留意しながら、5班利用者さん、スタッフ共に精進し、楽しい一年にしていくことです。今年もどうぞ、よろしく願いいたします。

生活支援員 松村雄一

### 『歌い始め』

新年を迎えはやくも1ヶ月が経ちました。時折、雪が降る日も見られています。そんな冬の午後、はじめでは今年初のカラオケを行っています。新やひだまりでも人気でよく歌声が聞こえてきます。本を見ながら自分で歌いたい曲の番号を探して、スタッフに伝えて入力してもらいます。本で探すのが難しい方には、普段からその方が口ずさんでいる曲をスタッフが見つけて入力しています。曲が始まると歌われるだけでなく、体を揺らされてそれぞれの楽しみ方をされています。利用者さんそれぞれの十八番の曲はもちろん、「この歌、歌えるの!？」とびっくりするような「津軽海峡・冬景色」「ソーラン節」「シクラメンの香り」など難しそうな曲を歌われる方がいらっしゃいました。また、懐かしい歌、初めて聞く歌と、レパートリーも増えて、普段、テレビを何気なく観ているようでも好みの曲をしっかりと覚えて、歌うことが出来るようになるので凄いな~と思いました。

今年もカラオケの時間がますます楽しい時間になりそうです。

GH世話人 金丸綾





# 療育雑記

『ご家族の想いを繋ぐ』

支援課長 岩田幸児

三気の里は設立から38年の歳月を重ねてきました。利用者さん、ご家族も同じように年齢を重ねてこられました。12月号の巻頭言「分かれと別れ」で施設長が記載していましたが、コロナ禍を経てここ数年で、ご家族の皆さんと直接顔を合わせてお話をする機会は圧倒的に減ってきました。

以前は、日頃の帰省は勿論、行事ごとにも沢山のご家族の方々に参加して頂き、利用者さんの色々なことを教えて頂いていました。その中には、ご家族の利用者さんへの想いのこもったお話が沢山ありました。今思えばとても貴重な学びの機会だったと思っています。

コロナ禍で入職した若手の支援員の中には、直接ご家族にお会いしたことがない職員もいます。それだけご家族の意見や想

いに接する機会が減ってきているといつことだと思えます。ご家族の意見や想いの中には、支援員にとって耳の痛いお話もあります。

特に“家族会”でご協力頂いていた「やろこ会」。

「やろこ会」では、草刈りや施設内の居室の整理や窓拭き等などあらゆる施設整備にご協力を頂きました。その中で、「他の利用者さんの洋服がタンスに入っている」「布団が綺麗に畳めていない」等々、沢山のご意見を頂きながら、居室の整理の仕方、掃除の仕方をご家族から学び、その後の環境整備に活かしてきました。そこには、「綺麗な生活環境の中で生活してほしい」というご家族の想いがあったのだと思います。私自身、色々なご意見を頂きながら、利用者さん個々のご家族の想いに応じた居室の整備に努めてきました。「窓が綺麗にしてある。窓拭きしてもらったんでしょ。」と嬉しそうに笑顔で仰られたご家族の笑顔は、数年たった今でも鮮明に覚えています。

三気の里には田中 稔先生が

残された

「身体の清潔保持と保健衛生の習慣を身につけるよう留意する。」  
「衣服・寝具の清潔保持と調節に留意する。」

「住空間の清潔保持と安全に留意する。」という言葉があります。その前段には「話すことが出来なかったり、訴えることが出来ない入所者が殆どである。入所者は気候の変化や清潔の判断が不十分であるので、絶えず身の回りや環境に気を配り、指導・助言したり援助する必要がある。」(原文)とも記されています。

ご家族は、利用者さんの代弁者であると思います。言葉で伝えて下さる利用者さんもしらっしゃいますが、三気の里で生活されている利用者さんの大半が身の回りの物の過不足やその他の要求を上手く伝えることが難しい方々です。だとすれば、ご家族の意見や想いは、利用者さんの声にかわるものだと思います。

ご家族が直接目にする機会が減ってきた三気の里の生活環境は、「綺麗に整理してくれてい

ますね」なのか「ここが汚れるよ」なのか「洋服の足らんごたる」なのか。

私自身、ご家族の想いを十分に汲みとれているとは思いませんが、利用者さんのご家族が仰っていたことや、ご家族の利用者さんとの接し方を交えて話をすると、目をキラキラさせて聴いてくる若手の支援員がいます。

私達には、将来利用者さんを支えてくれる人たちに、ご家族の想いを繋げていく重大な役割があります。

そのためにも、ご家族のお話を伺い、想いを受け止める。そして、しっかりと繋げていくことを、これからの課題にしていきたいと思っています。





# アンパ

『陶芸で干支作り』

支援員 中牟田 真奈美

昨年11月と12月に、創作活動で干支のへび作りを行いました。アンパでの干支作りは6回目を迎える為、利用者の皆さんも毎年楽しみにされています。

まず11月の成形では、粘土を細長く伸ばし片方に頭と顔を、反対側に尻尾を作っていました。手順は分かりやすく図解でも説明されているので、皆さん手際よく上手にへびの姿に成形されていました。

次に12月の絵付けでは、それぞれ思い思いの色を選び丁寧に色付けを行っていました。Mさんのへびの色が最初真っ黒になり驚きましたが、その上からきれいな色と模様を付けられ素敵なかっこイへびに完成。Yさんは微妙な色のコントラストで本物のへびのように仕上がっていました。

回を重ねるごとに皆さんの手際も良く、本当に良い作品に仕上がっているように感じます。毎年、利用者の方達が上手に作れるようにと干支のデザイン、手順書、シグを考え、教えて下

さっている講師の方には、心から感謝しています。

完成したへびの置物はそれぞれ、三気の里やグループホームに持ち帰り、お正月の玄関を賑やかに飾ってくれました。

今年も巳(魅)力的な歳になりました。すように。

# 事務

『報酬改定について』

事務員 平田 祐加

今年度は私が担当している業務である障害福祉サービス等報酬改定の年でした。三気の里が提供をしているサービスも加算の算定基準等の変更点が複数あり、年度当初は繰り返し資料を読み、分からないところは調べ、理解できるように努めました。気が付くともう今年度もあと数ヶ月ですが、現在も前月分を確認しながら毎月の請求する分を進めている状況です。また、今年度は不正請求等のニュースが特に多かったように感じます。利用をされていない日に〇をつけて請求をしてみました。送迎に乗っているのに〇を付けていなかったりなど、ボタンひとつで間違ってしまうことに繋がるので、他人事と思わず今後も確

認して気をつけていきたいと思っています。加算を算定するためには、記録が必須項目のものが多いため、今後もサビ管や支援スタッフ等と確認しあいながら、正しく請求業務ができるように協力をして行っていきます。

# 地域交流三巴ホール大会

『寒暖』

主任 友尻陽也

12月15日に5年ぶりに「三気の会 地域交流三巴ホール大会」を開催しました。チーム召集の際にはクラブ大津様に相談し、地域のチームへの声かけのお手伝いをしていただきました。5チーム集まり、三気の里スタッフチームの計6チームの参加となりました。当日は気温も低かったのですが、白熱した試合も多く、とても熱く盛り上がりました。三気の里スタッフチームも「5点取ろう！」と20点マッチの中、完璧なチームワークで試合に臨むことができました。

今回参加して頂いたチームの皆さまには運営の面で至らない部分もあり、ご迷惑をお掛けしました。来年は今年以上に盛り上がることを目標に計画をして

いきますので、ぜひご参加をお願いいたします。今回出ることでできなかったチームの皆さまのご参加もお待ちしております！！





## 2月スケジュール

05(水) グループホーム第三者評価  
 06(木) 芸術クラブ  
 07(金) 創作クラブ  
 08(土) イベント食(カレー)  
 11(火) バレンタインチョコレート作り  
 14(金) アンパの日  
 4班・5班レクリエーション  
 BeTREEレクリエーション

20(木) 嘱託医来診  
 27(木) 1班レクリエーション  
 28(金) ゴールドクラブ  
 毎週月曜日 訪問理容サービス  
 毎週火曜日 BeTREE役場販売  
 BeTREE  
 <営業時間>9:30~17:30



betree314

## 自閉症啓発デー

「熊本県北部発達障がい者支援センター、わっふる、主催

自閉症啓発デー2025

in 玉名」

毎年4月2日は、国連が制定した「世界自閉症啓発デー」で、この日から8日までを「発達障害啓発週間」と位置付けられ、今年も4月2日に東京タワーや熊本城がブルーライトアップ(自閉症・発達障害啓発のシンボルカラーが、「ブルー(青)」で「癒し」や「希望」を意味)されます。また世界自閉症啓発デーinくまもと2025 実行委員会(親の会、当事者さんの会、行政、発達障がい者支援センター等)を中心に啓発活動が充実するよう協議を重ねています。今年のわっふるは、令和7年4月5〜6日(土・日)に有明圏域のかりーノ玉名でスタッフ、ペアレントメンターさんがブルー(青)のTシャツを着てイベントを開催致します。内容



は、発達障がいの方の作品展示書籍、支援グッズの紹介、疑似体験となっており、昨年度も「作品1つ1つが生き生きしていて、楽しかった」、疑似体験をして「大変さを感じ、声掛けを考えるきっかけになった。」等の感想を頂いています。詳細は、3月に、わっふる、ホームページに掲載致しますので、是非お立ち寄り頂ければと思います。

熊本県北部発達障がい者支援センター、わっふる。

センター長 榎本英也

沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

### 【寄付物品】

小牧 博則様 赤星 央子様  
 中嶋 久枝様 森川 琇介様  
 魚谷 秀文様 清田 栄一様  
 櫻木 勇夫様 中村 秀隆様  
 松村 俊介様 米田 孝一様  
 渡邊 正司様 田中 満子様  
 金森 保様 井手上 昌子様  
 米村 秋江様 東坂 富士代様

### 【後援会】

魚谷 秀文様  
 田之上 あかね様

### 編集後記

2月になり、寒さが続く中で、立春の前日の節分では、豆まきなどで邪気を払い、福が来るように願いました。今年も福が多くあるように願いたいと思いました。

中村 圭助